

養殖衛生管理体制整備（海面）

山根弘士（増養殖部）

1 目的

養殖魚介類の防疫指導を適切に行うことで、疾病のまん延防止を図り、安全・安心な水産物の生産・供給体制を確立する。

2 方法

1) 養殖場の巡回指導

県内養殖場を中部（田辺湾）、南部（串本浅海漁場・大島漁場）、東部（浦神湾・森浦湾）の3海域に分け、毎月1回ずつの巡回指導を実施した。

2) 水産用医薬品残留検査

マダイ養殖における水産用医薬品適正使用指導に資するため、平成24年11月5日・7日に養殖マダイを串本海域（2歳魚、平均魚体重1.8kg）および田辺海域（1歳魚、平均魚体重0.6kg）から5尾ずつサンプリングし、筋肉中の塩酸オキシテラサイクリンの医薬品残留検査を実施した。

3) 魚病診断

巡回指導の際のサンプリングや試験場に持ち込みのあった検査検体に対して魚病診断・健康診断を実施し、原因確認とそれに対する対策指導を行った。診断は、外部症状や解剖による内臓の病変を観察した後、常法に従って寄生虫、細菌の検査を行った。細菌は抗血清による簡易同定を行った。また、イリドウイルス病はギムザ染色またはPCR法、キセノハリオチス症およびヒラメのクドア（クドア・セブテンブンクタタ）症はPCR法、ウイルス性神経壊死症（VNN）およびウイルス性出血性敗血症（VHS）はRT-PCR法により検査を行った。

3 結果及び考察

1) 養殖場の巡回指導

養殖業者に対して魚病発生状況ならびに水産用医薬品の使用について状況調査、指導を行った。

2) 水産用医薬品残留検査

両海域の養殖マダイいずれからも塩酸オキシテラサイクリンは検出されなかった。

3) 魚病検査（資料1）

（1）魚病診断

診断件数は14魚種91件であった。魚種別では、マダイが34件で最も多く、次いでクロマグロの21件、トラフグおよびクエでそれぞれ7件であった。これら4魚種で約75.8%を占めていた。月別に見ると高水温期の7～10月に多かった。

（2）魚種別魚病診断状況

ブリでは8～9月に不明病が2件、3月に微胞子虫症が1件発生した。

カンパチでは、ブリ同様8～9月に不明病が発生した。寄生虫性疾病では、ゼウクサプタ症が単独およびネオベネデニア症との合併症で10月と1月～2月に合計3件発生した。また、血管内吸虫症が3月に1件見られた。

マダイでは、イリドウイルス病が単独およびエドワジェラ症、エピテリオシスチス病との合併症で8～10月の高水温期に合計9件発生した。細菌性疾病はウイルス病や寄生虫性疾病との合併症として確認されたものも合わせると合計17件見られ、エドワジェラ症、エピテリオシスチス病、腹部膨満症、滑走細菌症、レンサ球菌症であった。寄生虫としては、ビバギナ、ラメロディスカス、トリコジナ、コリコチレ、スクーチカの寄生が見られた。

トラフグではイリドウイルス病が寄生虫性疾病との合併症として11～12月に2件発生した。その他、寄生虫性疾病である粘液胞子虫性やせ病、ヘテロボツリウム症、白点病が見られた。

クエでは9～10月にウイルス性神経壊死症が3件、2～3月にスクーチカ症が2件発生した。

クロマグロでは血管内吸虫症や骨折を伴うものが多く、血管内吸虫症単独または合併症として確認されたものが合計13件、骨折を含むものが11件見られた。細菌性疾病として、レンサ球菌症が2件、細菌種類は不明であるが

細菌性疾病を疑う症状が 1 件発生した。その他、魚体への影響が不明であるが脳粘液胞子虫症、心臓クドア症が確認された。

イサキではレンサ球菌症、イリドウイルス病、ウイルス性神経壞死症がそれぞれ 1 件発生した。

その他の魚種では、ヒラメでウイルス性出血性敗血症が 1 件、カワハギでレンサ球菌症が 1 件、天然ブダイで寄生虫性疾病が 2 件、エサ用に蓄養されていたマイワシに原因不明の斃死が確認された。

(3) 健康診断（資料 2）

診断件数は 14 魚種 62 件であった。このうち、水産用ワクチン接種に關係した健康診断は 3 魚種 3 件であった。魚種別に見ると、マダイが 26 件で最も多く、次いでクロマグロの 14 件となつた。この 2 魚種で 40 件となり、全体の約 64.5% を占めた。

(4) 魚種別健康診断状況

ワクチン接種に關係した健康診断として、ブリ、カンパチ、シマアジの検査を行つたところ、ブリで血管内吸虫の寄生が確認された。他の 2 種では異常は見られなかつた。

マダイでは、エピテリオシスチス、ラメロディスカス、ビバギナ、トリコジナ、クビナガ鉤頭虫、血管内吸虫の寄生が確認された。また、イリドウイルス病も 1 件確認された。

クロマグロでは、魚病診断と同様血管内吸虫、心臓クドア、脳粘液胞子虫の寄生が確認され、骨折を伴うものが 6 件含まれていた。

アワビ類の採卵前・放流前のキセノハリオチス症検査は、いずれも陰性であった。

その他、トラフグにネオベネデニアの寄生、天然ヒメジおよび天然イセエビに寄生虫性疾病を確認した。